

1. 評価結果概要表

法人名	有限会社 清寿会
事業所名	グループホーム正寿苑
所在地	岸和田市稲葉町2552-2 (電話) 072-489-2350
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年8月4日 (月)

【情報提供票より】 (平成20年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤12人, 非常勤2人, 常勤換算13.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~50,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 40,000 円			

(4) 利用者の概要 (7月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	葛城病院・吉川病院・亀井病院・渡辺病院・いとう歯科・岸和田徳州会病院・讃岐歯科
---------	---

「グループホーム正寿苑」は岸和田市の山手地区稲葉町の南側に位置し、緑あふれる環境の中にある。グループホームの敷地は広くゆったりとしており、玄関先にはガーデンテーブルセットが配置され利用者が談話したり、バーベキューを楽しむこともできる。裏側にはユニットごとに屋根つきの洗濯干し場と菜園、そして広い庭がある。利用者の居室にはすべて畳が敷かれていて家庭的な雰囲気がある。職員は利用者にとってグループホームが我が家であり一番ほっとするところであり続けるために、利用者に寄り添いながら日々のケアに取り組んでいる。食事は季節を感じさせる旬の食材を提供することを大切にしている。また個別支援にもできる限り対応している。落ち着いた環境の中で、利用者は季節折々の散歩、地域とのかかわり、畑の野菜の収穫などを楽しむことができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について職員全員で検討しその改善に取り組んでいる。地域とのかかわりについては、地域住民と自然な付き合いができる関係づくりと地域の認知症ケアに対する理解を深める勉強会を行っている。また地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。同業者との交流を通じたサービスの質の向上についてはグループホーム事業者連絡会を定期的に開催している。入浴支援については入浴日の違うユニット間で協力し合うことで対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に評価の意義を説明している。自己評価は管理者・介護支援専門員・介護主任が分担して記入し、その後職員に回覧し全員の意見を確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には利用者・家族等・地域代表2名・介護相談員・市高齢介護課職員などが参加し3ヶ月に1回開催している。会議ではグループホームの活動内容・評価への取り組み状況の報告や緊急時の町内放送・防災訓練への参加協力依頼等について話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等訪問時に必ず話しかけ、些細なことでも話していただけるように努めている。今年家族等に対するアンケートを実施し、それらの意見を活かし取り組みを行っている。今後もアンケートを定期的に行う予定である。また、介護相談員も受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会の行事である盆踊り・神社の初詣・戎大祭・秋祭りなどに招待してもらったり、近隣中学校吹奏楽部に来苑してもらい演奏会を開催している。地域の方とは畑で獲れた野菜をいただいたり自然な付き合いができる関係づくりに努めている。今年町会館で地域の方を対象に、認知症ケア専門士の精神科医を講師に迎え認知症をテーマにした勉強会を開催した。今後も地域で認知症ケアの理解を深めるための活動を続けていく予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が独自に作り上げた理念「利用者の人格を尊重し敬愛を持って接し、希望とゆとりのある生活を目標とする」がある。今後は、職員が中心となって理念に基づいた基本方針等をユニットごとに作成し、それらの中には地域密着型サービス事業者としての役割も明記していく予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの玄関に入ってすぐの壁に理念を掲示している。新入職員には採用時の研修で理念の説明をしている。また、日々の申し送りや会議等を通じて理念を共に意識しながら利用者のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の行事である盆踊り・神社の初詣・戎大祭・秋祭りなどに招待してもらったり、近隣中学校吹奏楽部に来苑してもらい演奏会を開催している。地域の方とは畑で獲れた野菜をいただいたり自然な付き合いができる関係づくりに努めている。今年町会館で地域の方を対象に、認知症ケア専門士の精神科医を講師に迎え認知症をテーマにした勉強会を開催した。今後も地域で認知症ケアの理解を深めるための活動を続けていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価の意義を説明している。自己評価は管理者・介護支援専門員・介護主任が分担して記入し、その後職員の意見を集約している。昨年の評価結果で指摘の改善課題については職員全員で検討しその改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者・家族等・地域代表2名・介護相談員・市高齢介護課職員などが参加し、3ヶ月に1回開催している。会議ではグループホームの活動内容・評価への取り組み状況の報告や緊急時の町内放送・防災訓練への参加協力依頼等について話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事業者連絡会内に今年からグループホーム事業者連絡会が発足し、定期的に市の担当者を変えて情報交換に努めている。また、市生活福祉課及び社会福祉協議会とは主に高齢者の権利擁護について情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や暮らしぶりを紹介した「正寿苑だより」と担当者が作成した利用者の健康状態や服薬状況及び金銭管理報告書を毎月家族等へ郵送している。訪問が少ない家族等には定期的に連絡を取っている。家族等訪問時にはその都度利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等訪問時に必ず話しかけ、些細なことでも話していただけるように努めている。今年家族等に対するアンケートを実施し、それらの意見を活かす取り組みを行っている。今後も定期的に行う予定である。また、介護相談員も受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はほとんど常勤で、原則固定している。やむを得ない理由で職員が異動する場合は管理職や介護支援専門員が代わりに対応することで利用者へのダメージを最小限に抑えるようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力病院が毎週院内研修を開催しており、認知症ケアに関連する内容のときには必ず参加している。社会福祉協議会の研修にも積極的に参加している。全体会議の時に内部研修を行っている。さらに、他市のグループホームと職員交換研修を行っている。	○	今後は事業計画の策定と共に、年間の研修計画を立てることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業者と連絡会を定期的開催し、それぞれの事業所を相互に見学して情報交換を行っている。また、介護支援専門員はケアマネージャー協会支部活動を行いネットワークの構築を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームが利用者にとって我が家と思えるようにはどうすればよいかを常に考えた雰囲気づくりに努めている。入居前の面接の際には利用者宅を訪問し、時間をかけて利用者の理解に努めている。また、泊り体験等を行うことで利用者が安心して利用できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添いながら、利用者が経験してきた仕事や生活のことを学ぶ場面が多くもてるように心がけている。利用者から掃除・裁縫・洗濯タタミなどの家事を教えてもらったり、歌の好きな方には職員が知らない素敵な歌を教えていただいたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から利用者及び家族等から利用者の意向を聞き取り、日常生活動作の程度や医療情報などを把握し、安心した暮らしが提供できるようにしている。入居後も必要な時には家族等や利用者を通うデイサービス等から詳しく聞き取りを行い、利用者の思いに沿えるための取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位という方針のもとに、介護計画作成時には家族等も話し合いに参加できるように連絡し、できるだけ日程調整をしている。そしてそれらの思いや意向を介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、モニタリングの結果を反映した介護計画を作成している。見直し以前に対応できない変化が生じた場合には、利用者と家族等及び必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の生活の継続ができるように、希望があれば、墓参りや行きつけの美容院への外出や一時帰宅の援助を行っている。また、全利用者の通院時の援助もしている。家族の希望があれば、利用者と一緒に泊ることも可能である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院からの往診が定期的に行われているが、希望があれば入居前からのかかりつけ医での受診への同行支援もしている。医師から家族等が説明を受ける時も職員と一緒に受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとして可能な限りの対応ができるように利用者・家族等の意向をもとに主治医及び関係者と話し合い、利用者や家族等が納得のできる方針を全員で共有できるように取り組んでいる。重度化して医療的ケアが必要になった場合などは医療施設への紹介などを家族等と十分に話し合いながら取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては個人情報取り扱い規定を策定し管理している。プライバシーに関わる声かけには配慮が見られる。利用者の個人ファイルなどは目の届かない場所に施錠して保管し、日々頻りに記録が必要な資料も直接目に触れることがないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活スケジュールは設定しているが、起きるのが遅ければ朝食の時間をずらしたり、入浴日であっても利用者が希望すれば外出を優先したりするなど、利用者のペースと生活のリズム、体調に合わせて本人の希望に沿えるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感に配慮した旬の食材を提供することを基本としている。食材は業者に委託しているが、買い物に行き、利用者の好みの献立を立てることもある。また、変化を楽しんでもらうためにバイキングや外食を定期的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3日である。入浴時間帯もほぼ設定しているが、別時間帯や入浴日外に利用者が希望する場合はユニット間で調整したり、シャワー浴で対応するなどしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや下膳、洗濯物たたみ、居室の掃除等を職員と一緒にしたり、菜園での収穫を通じて季節を感じてもらえるようにしている。歌の得意な人に歌を教してもらったり、踊りや大正琴・手品の催しの訪問も多くあり、利用者の好みに合った生活を楽しんでもらえるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の神社などによく散歩に出かけている。スーパーマーケットへの買い物や美容院への外出支援も行っており、定期的な行事としての外出（外食や花見）とともに個別の希望にも対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関とユニット間の鍵はかけていない。外出しようとする利用者には職員が後方から見守り、ついて歩くことで行動を制止することなく対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の立会いで行っている。消火器も目に付くところに設置し、職員は全員使用することができる。災害マニュアルも作成されている。火災等緊急の場合は町内放送を流して、地域の協力が得られる体制づくりに取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を介護経過表に毎日記録している。各居室にもお茶の入った急須を置き、いつでも水分が摂れるようにしている。食事量の少ない利用者には好物の献立を考えたり、おやつで補ったりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にはすだれで日よけがされ、ガーデンテーブルセットを設置して談話スペースとして利用している。玄関を入ると奥の対面キッチンから調理の匂いが漂い家庭的な雰囲気がある。居間には利用者や職員の写真や花などが飾ってある。テレビ前にはゆったりとしたソファがある。トイレ表示を利用者の目線で大きく表示しているが、明るい雰囲気になっている。壁一面の掃き出し窓から庭が見え、十分な採光もある。利用者は日中屋内にいる時はほとんど居間で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には親しみのある氏名のプレートがかけてある。居室は全室畳敷きで洗面台が備え付けている。利用者の好みや状態に合わせて、布団かベッドの使い分けをしている。家具類はすべて利用者が以前使っていたものを持ち込んでいる。家族の写真・カレンダー等が思い思いに飾ってあり、仏壇が置かれた部屋もあり、利用者が落ち着いて暮らせるようになっている。		

※  は、重点項目。